

面白みこそ研究の宝庫 —2学年 SS 講演会—

◇期 日: 2025年6月2日(月) 13:30~15:35

◇場 所: 本校至誠ホール

◇参加者: 本校第2学年生徒 239名、本校教職員



今年のSS講演会では、名古屋大学未来社会創造機構の客員教授兼エジプト日本科学技術大学副学長で、本校出身の福田敏男先生をお招きし、「2050年 AIとロボットによる快適空間構築」という演題で講演をしていただいた。先生は、アジア・ヨーロッパ史上初めて選挙で2020年IEEEのpresident &CEOに選出されており、技術面で世界的にも活躍されている方である。

AIの開発が進み技術が進歩していく中で、シンギュラリティ —機械の知能が人間の知能を上回る時代— が確実に近づいている。AIとロボットはnm単位からkm単位の幅広いスケールで私たちの快適な生活に関わっており、その試みも私たちの衣食住から、介護、災害復興までと多方面に渡る。輸送面ではamazonで段ボール詰めされた荷物が指定の位置に運ばれるような仕組みとしてKIVA systemが採用されているという。また、Home relaxation/Hospital nursing careなど私たちの生活に身近なところでもAIロボットの技術が活用されている。

講演では様々な事例を映像や図と共に紹介され、私たちが考えもしなかったような形で研究が進められていることを知った。英語や物理的な思考を用いた説明で、ハイレベルなロボット研究の実状を少し覗くことができたように感じた。例えば、先生が作られたThe EVE projectの血管のシミュレーターでは全身の血管が細部まで再現されており、脳梗塞の治療などに応用できるそうだ。開催中の大阪万博でも先生の医療研究に関連した展示がなされるほど世界的にも評価がされている技術であるということだ。

先生は面白みを感じさせるものはinteractionであると語られた。そしてその面白みが研究の宝庫であるという。私たちの将来においてもphysical interactionやinformational interactionを大事にして、広い世界の中で様々な経験をしたり積極的に情報収集したりすることで、身近なところから“面白み”を見出して将来にわたる探究のきっかけを見つけていきたい。

